

生まれ変わった AXIOM80 ! M 氏宅にて

M 谷

平成 13 年 12 月 27 日朝、ASC 神戸支部の K 谷氏から、電話である。「12 月 29 日ムジカライザー繋いだ JBL4350A 聴けるかも？インフラノイズの秋葉社長の紹介ですが。ご一緒しませんか？」こんな美味しい話に乗らないのは、オーディオマニアではない。当然すぐに OK の返事をする。私も JBL4343 を使っているのだ。是非ともムジカライザーを繋いだ場合とそうでない場合の違いを知りたいのである。

正月休みに入った初日、K 谷氏の車に便乗させてもらい、約束時間に間に合うように目的地へ向かったのだが、カーナビの地図だけを頼りに行こうとしたための、トラブルで 1 時間も遅れてしまった。M 氏宅への到着には、結局 M 氏本人に迎えに来てもらうことになり迷惑をかけてしまった。

そのお宅は、高台の頂上付近にあり、最近建て替えられた、豪勢な 1 戸建て住宅であった。M 氏御夫妻の人柄の良さか、初めてのお家に伺ったような、雰囲気はまったく無く、とても気楽に過ごさせてもらうことになったのである。

オーディオルームは 14 畳と言われていたが、メートル規格のため実際は、18 畳 (4m × 7m) の部屋に、これでもかと言わんばかりの、アンプ群が左手に、スピーカー群は前方には 3 列わたって設置しているのには、開いた口がふさがらない。

アンプは、すべて真空管アンプ？で、10 台以上はあったようだ。それもすべて現役で作動しているのだからすごい！名前の分からない手作りやビンテージもののアンプばかりだ。ガレージメーカーに作ってもらったアンプが今回主役のスピーカーに繋がっていた。

背の高いサイドボードが、右手の壁際に構えているのだが、飾り棚には多くの名真空管が飾っており、引き出しの中は、箱入りの真空管でいっぱいである。何ともすごい光景だ！スピーカーも 6 組はあったようだ。その中でも飛び抜けて 4350A が大きく、一番の奥の特等席で異彩を放っている。

しかし、その日のメインは、ムジカライザーを繋いだグッドマン AXOM80 で、クラシックの名演（名前を聞いてもすぐに忘れてしまう。自分の無知が悔やまれる。）を聞かせてもらったのだが、いやあ、すばらしいの一言。レコード、CD 何でもござれである。次から次へといろいろな曲を聴かせてもらったのだが、ここは是非とも普段聞き慣れた確認音源を聴いてみたい！ということで、持参した CD をお願いした。

この本を読まれている方なら、誰でも知っている、いや持っている？はずの「土と水」 Duo Live in 萩」である。クライオ盤とノーマル盤の違いがこの音では、分かるだろうとは、K 谷氏も同意見であった。

最初はノーマル盤からで、3曲目の **Summer Time** を聴く。衣擦れの音、息づかい、鳥の声、蝉の鳴き声をはっきりと聞こえてくる。ベースやソプラノサクソも何ともリアルである。

「イヤーすごいですね！」が私の口からで出た偽らざる気持ちであった。次にクライオ盤を聴くとちゃんと違いが分かるのである。クライオ盤は細かい音まで再現してくれるが、音の厚みに関してはノーマル盤が若干上かな？とこれが私の感想である。オーディオマニアはクライオ盤で、音楽愛好家はノーマル盤を選ぶだろうと納得する。

このノーマル盤を、CDR にコピーしたものについても聞き比べが始まる。ダイレクトにコピーしたものと DR3000 を通してコピーしたもの、この2つの音の違いを聴いてみる。DR3000 を通してコピーしたものは、音が少し柔らかく聴きやすくなるようだ。クラシックを聴く人には、この方が良いらしい。DR3000 を通さない場合は、ノーマル盤と比べあまり変化は感じられなかった。

このようにちょっとした音の違いを確かめられるのも、このスピーカーが、ムジカライザーを繋ぐことにより、音を素直に、苦もなく出すことができるに他ならない。

このスピーカー、20cm で、真ん中にラッパのようなコーン紙を備え、ベークライトで3点で最外周を支持している、エッジレスのシングルコーンスピーカー。「40年前に作られたスピーカーのようだ。」とは考えにくい。世に出てくるのがあまりにも早かったのだ。ムジカライザーが出てきた今が、このスピーカにとって居心地の良い時代ではなかろうか。

他のスピーカーでも、ムジカライザーを付けたり外したりしたのだが、どの場合も、聞きやすい、かと言って音が丸くなることが無い。別の言い方をすれば、高域の暴れが無くなるように聞こえるというのが私の感想である。実際に音を分析すればもっと多くの改善要素があるのだろう。

ところで肝心の 4350A にムジカライザーを繋いで聴くには、重すぎて、動かすことが出来ず、ムジカライザー無しでの試聴となったのは少し残念であった。もう一度伺って、ムジカライザーを繋いだ 4350A を聴いてみたい！

最後は、震災の際に拾われたという、田端義男や美空ひばりの演歌のレコードや CD を聴きながら、オーディオ談義を奥様も交えてする事となった。「この音になってバタやんの歌の上手さが分かるようになりましたよ。」と言っておられたが、音が良くなると、歌の上手下手もよく分かるようになるようである。

おいしい音とお持てなしで、至福の時を過ごし、満腹状態で、M 氏邸を後にするのだが、とても心地よい雰囲気だったため、気がついたときには、すでに外は暗く、ずいぶん長居をしてしまっていた。お暇しようと1階へ下りたら、リビングルームにも、タンノイの旧アーデンがデンと据えられているではないか。もう完全にノックアウトの状態です。M 氏宅を後にすることになった。

その後、メールで、「JBL4350A もムジカライザー繋ぎ聴いていますが、やはり良い方

向の音に変わりました。ひょっとしたら AXIOM80 よりも良く鳴っているかもしれません。」と言う嬉しい知らせがあった。どのように音が変わったか、この耳で聴いてみたいものだ。

そんなに良い物だったおまえ買ったらと言われそうだが、買いました。そしてもちろん、これを繋いだ音には満足しています！

以上

編集者注：インフラノズ社のムジカライザーに興味を持たれた K 谷氏が実際に聴けるところがないかと製造元に問い合わせられ、その仲介を受けて K 谷氏が M 谷氏を誘って拙宅を訪問され、ムジカライザーをセットした AXIOM80 を聴かれての印象を M 谷氏が、現在は閉鎖された投稿先に起稿されたものを本人の許可を得て転載しました。